



毎回、サントリーホールを熱い感動の渦に巻き込む「ARKフィルハーモニック」の演奏。  
ヴァイオリニストとして、また指揮者として活躍する三浦文彰が今年からアーティストティック・ディレクターに、  
辻井伸行がピアニスト・イン・レジデンスに就任した。  
日本のトップクラスの演奏家を集め、お互いが刺激しあいながら演奏する姿は、新しい時代の到来を告げる。  
その実力をベートーヴェンなどの歴史的傑作で味わい尽くす絶好の機会が来た。

音楽評論家 片桐卓也



辻井伸行 (ピアノ)  
NOBUYUKI TSUJII, piano



三浦文彰 (指揮、ヴァイオリン)  
FUMIAKI MIURA, conductor, violin



〈サントリーホール ARKクラシックス〉レジデンス・オーケストラ  
ARKフィルハーモニック

2009年「第13回ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール」で日本人として初優勝して以来、国際的に活躍している。2011年、ニューヨーク、カーネギーホール主催のリサイタルで驚異的な大成功を収め、以後定期的に同ホールの主催公演に招聘されているほか、ロンドン、ウィーン、パリ、ミラノなど、世界の主要都市でのリサイタルやオーケストラとの共演はいずれも高い評価を受け、欧米の主要コンサートホールや主催者からの出演依頼が数多く寄せられている。また、著名な指揮者や世界的オーケストラからも高く評価されており、ユロフスキ指揮ロンドン・フィル、ケント・ナガノ指揮ハンブルク・フィルなど、著名オーケストラの日本ツアーのソリストに数多く抜擢されているほか、欧米の一流オーケストラの定期公演にもたびたび招聘されている。2024年以降もニューヨーク、ロンドン、パリ、シドニーをはじめとする主要都市での公演や世界的オーケストラとの共演が数多く予定されており、日本を代表するピアニストとしてさらなる飛躍が期待されている。

世界最難関と言われるハノーファー国際コンクールにおいて史上最年少の16歳で優勝。ロサンゼルス・フィル、マリンスキー劇場管、ベルリン・ドイツ響などと共演。共演した指揮者にドゥタメル、ゲルギエフ、フェドセーエフ、ズーカーマンなど。大河ドラマ「真田丸」テーマ音楽演奏や「情熱大陸」出演も大きな話題となった。2018年からスタートした〈サントリーホール ARKクラシックス〉ではアーティストティック・リーダーに就任。ロンドンの名門ロイヤル・フィルのアーティスト・イン・レジデンスも務める。22/23シーズンは、バルセロナ響、ウィーン室内管などと共演し、ピリスとのデュオリサイタルも行う。また、ウィーン、パリではリサイタルを行い絶賛を博す。24年4月にはイスラエル・フィル定期演奏会に出演予定。CDはエイベックス・クラシックスよりリリース。09年度第20回出光音楽賞受賞。22年「Forbes」Asiaにおいて「30 under 30(世界を変える30歳未満の30人)」に選出される。使用楽器は株式会社クリスコ(志村晶代表取締役)から貸与された1732年製ガルネリ・デル・ジェス「カストン」。

毎年10月にサントリーホールを舞台に繰り広げられる都市型の音楽祭〈サントリーホール ARKクラシックス〉のレジデンス・オーケストラとして2019年に「ARKシンフォニエッタ」の名称で発足。〈サントリーホール ARKクラシックス〉のアーティストティック・リーダーを務める辻井伸行と三浦文彰の呼びかけにより、ソリストとしても活躍するフルートの高木綾子やチェロの遠藤真理、コンサートマスターや首席奏者として日本のオーケストラ界を牽引する三浦章宏、高橋和貴、松浦奈々、会田莉凡、鈴木康浩などが中心的な役割を担い、国内外のコンクールで優勝を飾った期待の若手奏者らが伸びやかに演奏を繰り広げ、日本最高峰のオーケストラのひとつと賞賛される。編成の拡大に伴い2024年より名称を「ARKフィルハーモニック」(略称ARKフィル)に変更し、アーティストティック・ディレクターに三浦文彰が、ピアニスト・イン・レジデンスに辻井伸行が就任。2024年春には三浦文彰指揮によるデビューCD「ブラームス:交響曲第2番、交響曲第4番」をエイベックス・クラシックスよりリリース予定。